



## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

今年4月、全国一斉に3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われているものです。文部科学省より全国や北海道の調査結果が公表され、本校では既に3年生の生徒一人一人に個人票を配布しております。

つきましては、本校の調査結果をお知らせいたします。調査の結果をもとに、課題となる点につきましては日常の学習活動を通して改善に努めて参ります。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしく願いたします。

### 1 学力調査の結果と課題、改善の方向について

調査は次のような問題を使って行われました。

国語	学習指導要領に示されている3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選。中学校第2学年までの内容。
数学	「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題。中学校第2学年までの内容。
理科	学習指導要領に示されている4領域（「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選。中学校第2学年までの内容。

次頁以降の各教科、本校の概要については、学習指導要領で示されている国語科・数学科・理科の領域について、本校の平均正答率を全国の平均正答率（全国平均）と比較して4段階で、以下の通りで表しています。

「上回っている」	・・・	全国平均+3.1ポイント以上
「やや上回っている」	・・・	全国平均+3ポイントまで
「やや下回っている」	・・・	全国平均-3ポイントまで
「下回っている」	・・・	全国平均-3.1ポイント以下

## 本校の概要

「言葉の特徴や使い方に関する事項」  
・全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」  
・全国平均をやや上回っている。

「書くこと」  
・全国平均をやや上回っている。

「読むこと」  
・全国平均を上回っている。

## 国語

## 今回の調査における課題

●事象や行為を表す語句について理解すること。

●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

●目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

## 改善の方向

○新しく出会った言葉について調べたことを記録したり、その語句を話や文章の中で使ったりする活動の充実。

○聞き手の反応を想定し、相手にわかりやすく伝わるように表現を工夫した資料を用いて話す活動の充実。

○題材や伝えたいことが目的や相手、書く意図に合っているかを判断しながら文章を書く活動の充実。

○文章の構成や展開について、自分の考えを支える根拠を挙げながら自分の考えを発表したりする活動の充実。

## 本校の概要

「数と式」  
・全国平均を上回っている。

「図形」  
・全国平均を上回っている。

「関数」  
・全国平均を上回っている。

「データの活用」  
・全国平均を上回っている。

その他

## 数学

## 今回の調査における課題

●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。

●図形から、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。

●関数について、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

●基本的な知識や技能を用いて問題を解くこと。

## 改善の方向

○数量の関係を文字を用いた式で表し計算すること、その結果を正しく解釈する活動の充実。

○ある事柄が成り立つことを数学的な表現を用いて説明すること、その結果を他の事柄に活用する活動の充実。

○日常的な事象から関数関係を見だし、表・式・グラフを使って問題を解決する活動の充実。

○不確定な事象の起こりやすさを考える際に、確率を根拠として説明する活動の充実。

○授業の中で反復練習する機会を設け、基本的な知識・技能の定着を図る。復習に対する意識が高まるよう支援する。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
理科	<p>【学習指導要領の領域】 「エネルギー」を柱とする領域 ・全国平均を上回っている。</p> <p>「粒子」を柱とする領域 ・全国平均を上回っている。</p> <p>「生命」を柱とする領域 ・全国平均を上回っている。</p> <p>「地球」を柱とする領域 ・全国平均を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して予想される実験結果を説明すること。</li> <li>● 身のまわりの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定すること。</li> <li>● 水生生物の生命維持活動に関する知識が概念として身に付いていること。</li> <li>● 露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、地層を構成するものに着目し、分析、解釈すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 条件制御をしながら、結果との因果関係を整理する力がつくような機会を設ける。</li> <li>○ 探究的な学習の導入部で仮説と課題を合わせて設定する機会を設ける。</li> <li>○ 呼吸などの生命維持活動を生活環境などに関連付けながら、知識が概念として身に付く授業を行う。</li> <li>○ 時間的・空間的な見方を活用して、地層に関する知識や技能を関連付けて理解する授業を行う。</li> </ul>

## 2 生活習慣や学習環境に関する調査について

3教科(国語・数学・理科)の学力調査に加え、学習に対する意識や取組の状況、学習を中心とした子どもを取り巻く環境についての調査が行われました。調査の内容は「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面等の生徒自身に対するもの」「学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関するもの」です。

望ましい傾向があると読み取れる項目については、今後更に伸ばしていく取組を、課題があると読み取れる項目については、原因を分析し、改善に向けた取組を進めて参ります。質問項目について、特に顕著なものを紹介いたします。

### 望ましい傾向があると読みとれる回答

質問項目
○これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか
○1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか
○学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか
○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか
- 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか
- 理科の勉強は好きですか ○理科の授業の内容はよく分かりますか 等、理科に関する質問のほとんど
- 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか(国語・数学・理科)
- 授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか(数学・理科)

## 課題があると読みとれる回答

質 問 項 目
<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか</li> <li>●学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)</li> <li>●1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか</li> <li>●数学の勉強は得意ですか      ●数学の勉強は好きですか</li> </ul>

## 改善の方向

札幌市教育委員会では、『まほうのかいわ』を学校と家庭の合い言葉に、両者が同じ視点から子どもの「学習習慣」「運動習慣」「生活習慣」づくりを支えていく活動を推進しています。本校としても、学校教育目標「たくましく生きぬく力」の育成に向けて、働きかけを行っていきます。保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

### さっほろっ子「学び」のススメ

さっほろっ子「学び」のススメは、子どもと家庭、子どもと学校、学校と家庭をつなぐとともに、子どもの権利を大切にします。

子どもは、どの子どもよさや可能性をもっています。大人は子どもを他者と比較するのではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切です。学校で、家庭で、子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを伝え、子どもの成長を促していきましょう。

## まほうのかいわ

学校も、家庭も、まほうのかいわで習慣づくり

ま

学んだことを一緒に振り返りましょう。

ほう

方法と一緒に考えましょう。

の

伸びを認め、ほめましょう。

かい

改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう。

わ

わからないこと、できないことに挑戦できるように励みましょう。

札幌市教育委員会